

大田区自立支援協議会 令和2年度 第5回地域生活部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和2年度 第5回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和2年11月17日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	宮崎 渉	鶴田 雅英	大場 貴弘	佐久間 香織
	宮島 祐紀子	相澤 あゆみ	榎 拓巳	栈敷 洋子
	清野 弘子	中野 真弓	新田 美和	平井 有希子
	山田 悠平			
	区事務局：福島、秋山、西澤、大本、親跡、藤崎			
(5) 内容・要旨	<p>※名川会長リモート出席。地域生活部会は初参加のため自己紹介。 名川会長：筑波大学で講師をしている。障害福祉が専門。大田区はあまり関わりがなかったが、今後皆さんと勉強させていただきたい。</p> <p>1 議題</p> <p>(1) 第1回自立支援協議会本会の報告について</p> <p>宮崎委員：新型コロナウイルス感染症拡大抑止の観点から、傍聴もなく、今までとは異なった印象だった。今期は2年任期の2年目なので、より活発な活動をと考えていたが、コロナ禍で本会自体が開催できていなかった。各専門部会の活動報告について共有する。</p> <p>相談支援部会は、基本相談をテーマに個別支援会議の実施をしていく。介護保険のケアマネージャーと障害福祉サービスの相談支援専門員の役割の違いを捉えるワーキンググループも考えている。</p> <p>防災・あんしん部会は、ヘルプカードの改良などを検討する「自助・共助ツール」、福祉避難所へのアンケートを実施する「調査・研究」、権利擁護について検討する「権利擁護」の3つのワーキンググループが活動中。</p> <p>地域生活部会は、部会でコロナ禍での課題を検討していくこと、ワーキンググループは、区内施設と定着支援の調査については、年内に専門部会で活動報告を行う予定であることを報告した。</p> <p>次に意見交換の場面では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3部会体制にしたことで課題が絞られ効率的になった。 ・途中から参加すると情報が少なく感じる。(学校関係は4月交代) ・各ネットワーク体での引き継ぎの難しさがあるなどの意見が挙がった。また3部会体制の検証をどこで実施するか、今年度は例年よりも協議会活動が少ないため、もう2年やってみてから検証を行った方がいいのではといった意見が出た。さらに地域生活部会は取り扱う分野が広過ぎるので、例えば子ども関係については、専門部会を別で立ち上げた方が議論しやすいのではとの意見もあった。 <p>山田委員：ワーキンググループの取り組みを具体的に行政に伝えていくという話は出たか？</p>			

宮崎委員：話は出なかったが、そのような流れはあった。
山田委員：ワーキンググループは、活動し、専門部会で報告して終了ではなく、どういう枠組みで続けていくか、活動の結果をどのように行政に伝えていくかを検討していきたい。
鶴田委員：今回は本会が傍聴できなかったため、各専門部会のワーキンググループの活動を含め、協議会活動の公開性をどのように担保するかといった課題がある。ウェブなどの活用について提案した。

(2) WG区内施設(日中活動支援)現状確認の報告
鶴田副部長が報告。

宮崎委員：放課後等デイサービス(以下放デイ)は「個別支援」が基本だが、「集団療育」も大事。また、本来の目的は、「預かり」ではなく、「療育」。他区で都から職員数が多いと指摘され請求計算をやり直した例があった。これでは放デイとして成立しない。放デイのネットワークでも調査結果を報告し、議論したい。
山田委員：就労継続支援B型事業所で高齢化による問題が挙がっているが、ニーズの多様化に対応していくことが課題。
中野委員：多様化するニーズが見えたことは課題抽出の点で良かったと思う。

(3) WITH新型コロナウイルスにおける新しい生活様式に向けた地域課題について

ア 課題等の整理の仕方について

宮崎委員：どこに着地点を設けるか。作業部会でも話したが、状況的に見て、コロナの第3波が来ている。ここで今までの議論の過程を明確にしたい。今までやってきたことが活かせると考える。

イ 今後の進め方等について

鶴田委員：キーワードとして「情報の伝達」「(その)仕組み作り」が挙がっている。作業部会でA3の資料「WITH新型コロナウイルスにおける新しい生活様式に向けた地域課題について」からそれらを検討する話が出た。

事務局：作業部会において、課題の整理の仕方、今後の進め方について、ワーキンググループではなく拡大作業部会を立ち上げ、そこで課題の整理を行う方向になった。その進め方で良いか？

一同：了承。

事務局：参加希望の方に参加していただく。スケジュールは今後調整する。

山田委員：拡大作業部会で課題検討することはとても良いと考える。

鶴田委員：自立支援協議会を広く知ってもらうためにウェブで公開セミナーを行ってはどうか？まだ何も考えていないが、区でできなければ、民間でやることも考えたい。

中野委員：コロナ禍において各ネットワークでどのように対応したかを共有することで、例えば、今後の高齢者のコロナ対策等で活用できるかもしれない。これまで協議会で、公開セミナーを実施してきたが、コロナの状況もある中で、予算等含め実施は可能なのか。

事務局：確認し、回答する。

(4) その他の課題について

ア 令和2年度の課題としての取り扱いについて

宮崎委員：やり方を変えての一期目なので、定着させるところは定着させ、変えるところは変えていく必要がある。ワーキンググループを行うことで、解決の糸口になったり、行政や各ネットワークで議論してもらうきっかけ作りができていると思っている。

また一期目で取り組んだことを、少し時間をおいて検証する必要もある。

二期目のワーキンググループを作り、活動を活性化し次の議論や問題解決の糸口としていけたら。

青山委員：ワーキンググループで重度心身障がい者の生活を上げてみることはどうか？

昨年から抽出した課題をどうしていくのかを含めて令和3年度のスケジュールを考える必要があるのではないか。

鶴田委員：2年前、地域移行・地域生活部会で、重度心身障がい者で医療的ケアの必要な方の地域生活はどうなっているかの話が出た。当事者側だけでなくサービス提供側のニーズも明らかにし、マッチングさせる必要があると思う。また病院や地方から地域に戻る仕組みについて、どのようなことが必要か、現状の課題は何か等検討が必要。

山田委員：2月からワーキンググループが始まった。ピンポイントの課題を柔軟に考え、短期間で結論を出すはずだったができていないと思う。コロナの影響もあったが、これからでも起ち上げは可能か？

鶴田委員：次回議論したいが、ワーキンググループの設置は運営会議での承認が必要。

宮崎委員：部会のワーキンググループの承認は部会承認で、予定になかったものの起ち上げは、運営会議に相談し承認を得る必要があると思う。

中野委員：ワーキンググループの設置方法が確立されていないので、運営会議での確認が必要。部会の中で掘り下げたい課題に最優先に取り組む必要がある。

山田委員：5部会から3部会になった経緯を踏まえて、どの課題を優先していくのか？病院からの地域移行、戻る仕組みの観点については、まだあまり話が出ていないと思う。

棧敷委員：令和元年12月に確認したその他の課題の中には、相談支援部会と連携できる課題もあると思うので、それを相談支援部会に伝えていく必要があると思う。

(4) 地域生活部会令和2年度から3年度に向けた想定スケジュールについて

(5) 部会開催日程、年間スケジュールについて年間予定表をもとにスケジュールを確認した。

事務局：令和3年6月までのスケジュール案を提示した。ワーキンググループは12月1日の運営会議で提示できる。部会長・副部会長提案があれば出して。

宮崎委員：運営会議でワーキンググループ設置の議題が挙がる想定をしている。コロナウイルス関連の拡大専門部会については1月に地域生活部会内でまとめ、2月に情報共有や報告等を行う予定。その他課題について、12月、1月の専門部会で検討、1月、2月に課題整理を行っていく。令和3年度のスケジュールは1、2月に行う。

鶴田委員：コロナの影響で会議が開催できない時期があったが、2年任期のため動きがとれた。これが終わっても時間を空けない方がいい。各ネットワークで早めに専門部会のみ委員の選出は可能と考える。学校や保護者会は難しいかもしれないが、できるだけ早くスタート出来たらよいと思う。

山田委員：施策推進プランの説明会等今後の予定が知りたい。

事務局：確認し、全メンバー宛に情報提供を行う。

(6) 各連絡会等の情報提供について

山田委員より、以下について、情報提供あり。

「会報3号 ポルケニュース」

「区民活動団体レベルアップ講座」

「障害者権利条約 日本の審査でこう変わる 私たちの暮らし」、

「熊本の被災経験に学ぶ地域防災のこれから～発達障害当事者団体の取り組みから～」

鶴田委員：就労担当者会議に参加し、自立支援協議会での活動内容や進捗状況について説明、報告を行った。

今後、就労移行支援連絡会においても、報告を行う予定。

おおむすび連絡会より。自主生産品のクリスマスセールをアロマスクエアで開催予定。

(7) 各ワーキンググループの進捗状況について

宮崎委員：発達支援マップは予定通り進んでいる。

中野委員：就労定着支援の調査・分析は、11月24日のワーキンググループでアンケートの分析を行う。進捗的に12月は中間報告になる。年度内には完結予定。

区内施設の現状確認は、本日の報告を以て終了。

(8) その他

宮崎委員：名川先生から感想をいただきたい。

名川会長：ワーキンググループの扱いについては、議事録で確認し、運営会議で検討するべきと考えている。

	<p>3部会制をとっているが、それぞれの立場での話の結果が運営会議での発言につながっていることがよく分かった。</p> <p>鶴田委員：11月12日の推進会議の様子を伺いたい。</p> <p>名川会長：大枠は大体決まっていた。自分の理解はなかった。</p> <p>(10) 第6回「地域生活部会」に向けた各ワーキンググループの準備、作業、確認等 各ワーキンググループに分かれて実施。</p> <p>(11) 第6回「地域生活部会」に向けた作業部会について 日時：令和2年12月1日（火）10：00～12：00 場所：障がい者総合サポートセンター3階集会室1 メンバー：後日確認し、別途案内を送付予定。 司会：事務局</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--